説教20220918アモス書８：４－１２ルカ１６：１－１３「神に仕え 富に仕えない」

今日の旧約と新約の聖書箇所は読み比べてみますと大変興味深くそしてわかり易くなりますので、皆様もぜひそのように読んでみてください。さて、この二つの聖書箇所にはどちらにも不正をした人が出て来ます。不正な商人と不正な管理人であります。しかし、両者には大きな違いがありまして、それは誰によって不正とされたかであります。先ずルカ福音書をみますと、この管理人が不正とされたのは、告げ口をする者によってです。私たちはこの、告げ口をする者のことを或いは軽く考えてしまうかもしれませんが、人の言葉というものは、ヤイバのように人の仲を切り裂く凶器ともなりえます。一方、アモス書では、商人たちの不正を糾弾しているのは主なる神御自身であります。この大きな違いゆえに、両者は全く性格が違う話となっています。ルカ福音書の話は、主人すなわち主なる神が、不正な管理人を大いに褒めたたえ、喜んでいる話であるのに対し、アモス書のほうは、商人たちの不正に対し、主なる神は、大いに怒り悲しみ、それゆえに人間全体が滅ぼされると言った裁きの話になっています。

カトリック教会のフランシスコ教皇は、かつてこのルカの聖書箇所の説教で、このたとえ話を理解するための鍵は『不正にまみれた富で友達を作りなさい。』という御言葉にあると語られました。つまり、富を、人々の分裂や差別を招くように用いるのではなく、人々がつながるために用いなさいということであります。以上が前置きになりますが、それでは聖書に聞いて参りましょう。

主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渇きだ。人々は海から海へと巡り／北から東へとよろめき歩いて／主の言葉を探し求めるが／見いだすことはできない。

と、今日のアモス書の最後に記されています。主の御言葉とはパンや水と同じように味わうものです。先ほど、人の仲を切り裂く凶器のような、告げ口をする人間の言葉のことを話しましたが、その言葉にも又、味がありますがこちらの味は、口に入れることが出来ないくらいの苦い味でありましょう。一方で、主の御言葉の味というのは、乳と蜜以上の味わい、甘露水の醍醐味以上の味わいであります。御言葉の味わいとは、自らの心と体が、これまた主の御言葉によって打ち砕かれ、そして罪を赦されて、又、御言葉によって救われ立ち上がらされるという、何にも代えがたい喜びの味わいであります。。。主の御言葉を味わうには、必ず、御言葉によって自分自身の心と体が打ち砕かれる必要があります。逆に、御言葉によって、隣り人の心と体を打ち砕いているのでは、決して自らが御言葉を味わい喜ぶことは出来ないのです。

さて、今日のアモス書の箇所によると、 09節から

その日が来ると、と主なる神は言われる。わたしは真昼に太陽を沈ませ／に大地を闇とする。わたしはお前たちの祭りを悲しみに／喜びの歌をことごとく嘆きの歌に変え／どの腰にも粗布をまとわせ／どの頭の髪の毛もそり落とさせ／独り子を亡くしたような悲しみを与え／その最期を苦悩に満ちた日とする。

というように、私たち人間が誰一人救われることがないように世界全体が滅びに向かう苦悩の日々を語っています。私たちはこの御言葉をどのように読めばよいでしょうか。最後が、悲しみと嘆きと苦悩に満ちているなど誰一人として望まないことなのに、主なる神はこの様に語られます。そして、今を生きる私たちも、このような最後が起こり得るということを、今、大変な不安感の中で感じ取っているのではないでしょうか。

私たちは、今どうすればよいのでしょうか。私たちは、この御言葉に真摯に聞かねばなりません。そしてこの様に語られる主なる神と応答していけば、主なる神ご自身が、こんな最後になる事を最も悲しまれるということが分かって来るでしょう。

さて、実は今日のアモス書の小見出し「商人の不正」というのは後でつけられた語句でありまして、聖書本文には見られません。このことは意外に留意すべき大切なことだと思います。なぜなら、この「商人の不正」という語句に縛られてしまうと、これを読む私たちがこの小見出しによって、私は商人でもないので、ここに語られることは他人事だなどと解釈しかねないからです。

お前たちは言う。「新月祭はいつ終わるのか、穀物を売りたいものだ。安息日はいつ終わるのか、麦を売り尽くしたいものだ。エファ升は小さくし、分銅は重くし、偽りの天秤を使ってごまかそう。弱い者を金で、貧しい者を靴一足の値で買い取ろう。また、くず麦を売ろう。」

この御言葉は、ひとり商人たちにだけ投げかけられたのではなく、今を生きる私たち一人ひとりに対して主なる神が投げかけている御言葉です。新月祭ですとかエファ升ですとか古い時代の事物が語られているので、今の自分たちとは関係ない事と思わないで、むしろ私たちは心して、自分のこととしてこの御言葉を味わわなければなりません。さて、教会には毎月、日本国際飢餓対策機構様からの小冊子が届いています。集会室の机の上に置いてありますので皆様是非、手に取って読んでみてください。それによりますと、この地球上で１分間に17人の方々が飢餓によって命を失っておられるということです。この現実は本当に悲しくて苦しい出来事であり、しかも、私たちがこの地球上の生存システムの中を生きているものとして、多かれ少なかれ加担している他人ごとではない出来事なのです。こういった現実を知れば、「弱い者を金で、貧しい者を靴一足の値で買い取ろう」としているのが、昔話ではなく、今の私たちの身につまされる話であることが分かってきます。そしてこういう人間全員の罪によって、全世界が滅んでしまうということを主なる神は、今日、告げておられるのです。

安息日、というのは大変重要な、そして喜びの日であります。今日がその安息日であります。安息日は、私たち人間が奴隷労働から解放されたことを喜び、一切の労働を止めて、主の救いの御手に身を委ね、安らい、そしてその主に感謝と賛美を捧げる時であります。

日本が明治時代を迎えたとき、西洋の文物がわっと押し寄せて入って来たので、その受け取り方は、人によって千差万別であったようです。ある人は、キリスト教に導かれ、日曜日を安息日として守り、一切の労働をしなかったという人もいれば、西洋合理主義に感化されて、手段を択ばない、いわば夜討ち朝駆けをモットーとした会社経営に邁進した人もいました。こんな様々な態度が一応、社会に共存していたということは、今の社会より多様性があったのかも知れませんが、それはさておき、この手段を択ばない夜討ち朝駆け的な仕事を、主なる神は良くは思われません。なぜならば、それは人間が主なる神のことを忘れ、人間同士の仲間の世界に埋没してしまう事だからです。そうなると人間は神の導きや、神の計画を理解できなくなり、人間同士の成功体験に酔いしれ、或いは挫折し絶望すると言ったことを繰り返すようになるでしょう。そうなると、最早、単純に、神様助けて下さいと、主なる神に向かって救いを求めることは困難になってしまいます。なぜならそのような人間同士の仲間の世界は、神様から遠ざかり、最後には切り離されてしまうからです。

今日のアモス書は、この様に私たち人間一人一人が行う、大きなことであれ小さな事であれ、神を忘れた不正な行いが、積もり積もって、やがて苦悩に満ちた最後の日を招いてしまうということを語っているのです。

さて、今迄アモス書から主の御言葉を聞いて参りましたが、私たちは、これらの御言葉の前に、おそれいってひざまずくしかありません。そしてこれからルカ福音書のほうを見て参りますが、この主イエスが語られたたとえ話は、アモス書と重なる処もありますが、その語り方は、アモス書と全然違うのです。主イエスは、私たちにはっきりと「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」と言われて、人間同士の仲間の世界に埋没しないで、それよりはるかに大きい神につながりなさいと言われています。そのうえで、人間同士の仲間の世界の中で起っている、小さな事どもを、神の眼で観察して、私たち人間に必要なアドバイスを与えて下さっています。

イエス様は、「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」と言われて、小さな事一つひとつに忠実であれと言われています。小さな事とは今日の箇所では具体的には富、であります。富は神に比べれば、遥かに小さな事だからです。でも私たちはその富に対して忠実に行っていく必要があるのです。そしてさらに生々しく言えば、富というのはお金であり、しかも今日の箇所でいえば不正にまみれたお金であります。不正にまみれたお金は今の社会でもマスコミをにぎわしておりますが、この賄賂というお金は、人間の目から見てもそうですが、神の眼から見れば、価値がないどころかマイナスの価値しかない、小さな物であります。賄賂というお金自体には、何の味わいもなければ美しさもないのです。でもそんな取るに足りない小さな存在である、この不正にまみれたお金を、不正な管理人は、友達を作るという、人をつなげる、御心に適った目的のために用いることが出来たのでした。

しかし私たちはここで聖霊に満たされて、この不正な管理人の賢い振る舞いをみなければなりません。私たちは仮に聖霊に満たされていないと、そうはいっても、この管理人は、わいろによって、悪い御仲間を増やしただけではないかという発想に陥りかねません。

でも実は、ここでこれを読む私たち自身も、そんな風に告げ口をする者の立場に立つのか、或いは「不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる」というイエス様の御言葉を信じるか、の分かれ道に立たされます。

私たちは人間同士の仲間の世界の中で、大なり小なり皆、不正な者でありますが、そんな中で告げ口し合って益々、不正な者となるという出口がない奴隷の状態に縛られかねません。それを打ち砕いて下さるのが今日のイエス様の御言葉であります。どうか私たちが日々御言葉を信じ、それを行うことで、最後の日が苦悩に満ちた日ではなく、まことの喜びに満ちたキリストの日となるように待ち望んで参りましょう。

お祈りします

父なる神よ

あなたは、私たちに最後の日へと至る永遠の命を知らせて下さいました。その恵みに感謝し、あなたを褒めたたえます。私たちが、あなたからの恵みの一つひとつを、その都度素直に受け取ることが出来ますように、私たちを清め導いて下さい。

人間だけで成り立つ世界は、不正と争いで満たされ、やがて悲しみと嘆きと苦痛の内に滅んでしまうと言われます。どうか私たちがそのような最後を迎えることがないように、あなたの祝福と恵みで満たして下さい。安息日を守り、あなたに委ねることによって、喜びの歌に満ちた最後を迎えることが出来ますように。

主よ、今病に苦しむ人を癒し、慰めて下さい。あなたの御手の内にあって、永遠の命の道を反れることなく、日々を歩ませて下さい。

今、近づいている台風から、人々をお守りください。人々が協力して台風の被害を食い止め、苦しみを喜びへと変えて下さるあなたの御心によって、この災いを乗り切っていくことが出来ますように。